

浅草哀歌

北原白秋

青空文庫

1

われは思ふ、浅草の青き夜景を、

仲見世の裏に洩るる短夜の葱のむせびを、

公園の便所の瓦斯を、はた、澄めるアルボースの香を。

あはれなる蛇小屋の畸形児を、かつは知れりや、

怪しげの二階より寥さみしらに顔いだす玉乗の若き女を、

あるはまた曲馬の場にはに息喘ぎ、うちならぶ馬のつかれを。

新しきペンキに沁みる薄暮くれがたの空の青さよ。

また臭き花屋敷の側に腐れつつ暗みゆく溝くらの青さは

夜もつけて銘酒屋の硝子うち覗くかなしき男のみや知りぬらん。

われは思ふ、かかる夜景に漂浪さすらへる者のうれひを、

馬肉屋の窓にうつる広告の幻燈を見て蓄音機きけるやからを、
かくてまた堂のうしろに病める者、尺八の追分ふし。

2

さは思へ、さは思へ、一時ひとときののち……

五時過ぎの夕日黄色く、溝どぶ板いたに、髮床の硝子障子に、
 料理屋の軒の点ともらぬ角燈に、露バルコン台の青くさき芥子のほひに、
 照りあかり、羽虫ぞ舞へる、
 甘げなる線の粘ねばりのうちもつれやはらかに交つがへるかれら。

さは思へ、さは思へ、一ひととき時ののち……

ここにかの三味線弾きの下げすをんな司女寒げに坐り、
 破やれむしろ籍きたる上に、

かの暗き魚燈のけぶり頬にうけて、

はらは髮賤民の児ぞ調子をかしきかつぽれを頼りなげにも踊るら

む。

さあれいま羽虫ぞ舞へる。

公園のけふのひと日を立ちつくす男の手より、
かすり絵板はひるがへり、黄なる日に暫しかがやく。

3

わが友よ、わがわかき羅曼底の友よ、

日は暮れて薔薇いろの光^{かぼつす}薄き弧燈のしめり、

水の面^もと空気とにしみじみとにほひいでたる。

それを見つつ暮れてゆくよるべなきわれのねたみよ。

君もまた思ひ知りしや、あはれ夜のクラリオネット、

うち囃す銀のうれひはそことなく楽しけれども、

——いかにせむ、髪^の毛すぢに沁み入りて幽かにも顫ふ香料。

4

奥山の四時過ぎの日こそさみしけれ。

あたたかにうち黄ばむ写真屋の古きならびは、

半盲目の病児らの日向ぼこをば見るごとく、

掲げたる鈍き写真のうちにくはせ者の女役者の顔のみ白く、

罫^{びん}ならぶ窓のそば、露^{バルコン}台にダアリヤの花ただひとつ赤けれども、
なべてみな色もなし、入口の静かなる空椅子のうへに、
みよりなき黒猫ぞひとりまた背を高めたる。

見るものの凡てみな『過ぎし日』のごとくさびしく、
疎^{うと}ましき『忘却』の腐蝕よりのこされしものの痛さよ。
げに、白き横文字はその屋根に、いかがはしけれ、

The Art Photograph とぞ読まれぬる。

青空文庫情報

底本：「白秋全集 3」岩波書店

1985（昭和60）年5月7日発行

底本の親本：「白秋全集 第二卷 詩集第二」アルス

1929（昭和4）年12月10日

※本作品は底本の親本の「雪と花火」の「東京夜曲」に収められています。

入力：岡村和彦

校正：フクポー

2017年2月16日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

浅草哀歌

北原白秋

2020年 7月13日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>